

中期経営計画の進捗に関するご報告

当社は、2021年5月に2022年3月期から2024年3月期までの3ヶ年の中期経営計画を公表いたしました。
中期経営計画2年目を終えて、その進捗及び昨今の事業環境を踏まえ戦略のアップデートを行いましたので、数値目標を含む同計画の見直し結果をご報告いたします。

1. 経営環境

これまで、日本国内、海外ともに総じて堅調な景気に支えられ、需要は概ね底堅く推移いたしました。
一方、長期的には日本の人口減少に伴い、「需要総量」、「労働力」の漸減が予想され、国内の経済成長を下押しするリスクがあります。
また、短・中期的には、社会的重要課題である環境負荷低減や地政学リスクの高まり等、経営環境が想像以上のスピードで変化する中で社会の要請に応える臨機応変な対応とともに堅固な経営態勢の強化が求められています。

2. 経営の方向性

当社グループは、小容量の液体包装分野において利用される包装機械「液体充填機DANGAN」シリーズと、最適な包装性能を実現する高機能包装フィルムの双方を提供する唯一のメーカーとして、これまで様々な液体包装における経験と知見を蓄積してきました。
上述の経営環境を踏まえ、長期的視点から、経営リスクをコントロールしつつ持続的成長を実現する経営を目指し、「液体包装フィルム」「液体充填機械」「液体包装知見」をさらに融合・進化させ、お客様のニーズ及び社会のニーズに応えてまいります。

ビジョン

フィルムの製造販売にとどまらず
液体包装のプロフェッショナルとして、
刻々変化するお客様のあらゆる包装にかかわる課題を解決する
『総合エンジニアリングカンパニー』(注)を目指します。
(注)フィルムエンジニアリング・マシナリーエンジニアリング・プロセスエンジニアリングの総体

3. 中期経営計画2年目(2023年3月期)の振り返り

新中期経営計画「Shifting to the new Lamick and creating our new value」の2年目である2023年3月期は、引き続き販売戦略の見直しを進めた結果、高付加価値の液体小袋包装フィルム売上の増加や価格改定効果に加え、円安による為替影響もあり、売上高は前年同期を上回りました。営業利益につきましては、固定費抑制・生産性向上に努めましたが、原材料価格・エネルギーコストの上昇などの影響を受け、前年同期を下回りました。

(億円)	売上高	国内	海外	海外比率	営業利益	営業利益率
前期	281	222	59	21.0%	29	10.7%
当期	292	228	63	21.7%	25	8.6%
増減率	103.8%	102.8%	107.3%	103.8%	84.0%	80.3%

■国内事業

利益額・利益率の最大化

エネルギー資源・原材料価格の高騰等のコスト増加要因もありましたが、当社の売上における製品カテゴリーの中でコア領域である液体小袋包装フィルムの販売比率向上や販売価格改定を進めると同時に、生産性向上をはじめとした原価低減活動の一層強化を進め、減益幅を縮小することができました。

■海外事業

海外事業基盤の構築

刻々と変化する外部環境およびローカルニーズにさらに適応するため、Taisei Lamick Malaysia Sdn. Bhd. (現 Scientex Packaging (Kajang) Sdn. Bhd.) の株式 80.2% を SCIENTEX PACKAGING FILM SDN. BHD. へ譲渡し、現地生産の担い手を変更いたしました。同時に、ASEAN 地域のお客様へ「液体包装フィルム」「液体充填機械」の販売及びソリューションサービスの提供に特化した子会社を設立しました。米州においても、潜在顧客の多い米国東海岸へ Taisei Lamick USA, Inc. の New Jersey Branch に液体充填機械のデモルームを併設し、海外における事業基盤構築を進めました。

■環境問題への取り組み

液体包装事業の新たな価値創造

「環境負荷低減」をテーマにバイオマス由来を始めとした新素材による環境対応フィルムの開発等、お客様及び社会のニーズに応える新たな提供価値の研究・開発を進捗させることができました。

4. 中期経営計画 2024 の基本方針

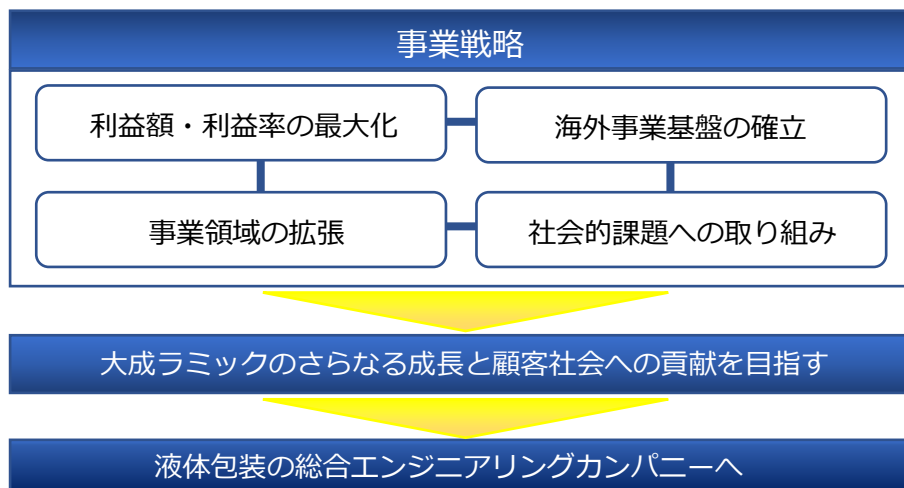
予測困難な環境変化に対して改めて中期経営計画で策定する施策を再確認し、様々なリスクに備え Final phase として取り組んでまいります。

中期経営計画 2024 基本方針

Shifting to the new Lamick and creating our new value

- 強みを活かした高付加価値商品・サービスの提供
そして、コスト削減・効率重視による利益の最大化へ
- 常に変化する外部環境・顧客ニーズを敏感に捉え、
変化に対する機動性・敏捷性をもった事業態勢へ
- 包装を起点とする液体流通における“質”の向上を実現する
アイデアを創出、形にし、唯一無二のビジネスへ

5. 新・中期経営計画 2024 の概要



■国内事業

利益額・利益率の最大化の継続

地政学リスクの高まりやアフターコロナによる経済活動の正常化等の影響を受け、足元ではエネルギーコストの高騰や人件費の上昇等、インフレの進展により引き続き利益の下押し圧力が高まっている状況です。これに対し今後も利益を確保するため、強みを生かした付加価値の高い製品やサービスの提供を追求するとともに、販売価格の継続的な見直し及び徹底したコストダウンに取り組んでまいります。

■海外事業

海外事業基盤の確立

コロナ禍による海外の物流混乱や輸送費高騰等、顕在化したリスクに対応すべくグローバルサプライチェーンの最適化に取り組むとともに、各地域特有のローカルニーズに合わせた戦略を策定・実行することで、量と質（利益）を兼備した事業の確立を進めてまいります。

■事業領域の拡張

液体包装事業の新たな価値創造～唯一無二のビジネスへ～

お客様の生産性向上に貢献する液体包装ソリューションシステムの開発を推進してまいりました。今後、運用テスト及び評価フェーズに移行し、実用化に向けて取り組んでいく予定です。

■社会的課題への取り組み

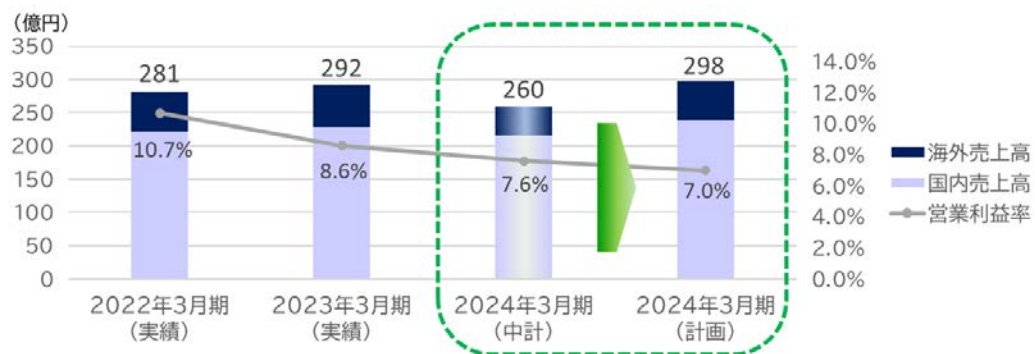
持続可能な社会の実現に貢献

フィルム・充填機械の双方を提供する唯一の企業として、新素材による環境対応フィルムの開発と充填機械との親和性を課題とし、「環境負荷低減」と「生産性・機能性」を両立するソリューション開発を推進してまいります。

また、既に取り組んでおります輸送時のモーダルシフト推進や太陽光発電等に加え、当社グループの事業活動における CO₂ 削減への取り組みの継続や、DX 等による多様な切り口で業務効率化を図り生産性向上への取り組みも推進してまいります。

▼計数計画（連結ベース）

昨今の事業環境を踏まえ、2021 年 5 月に公表した計数計画から 2024 年 3 月期の計画を見直ししております。



6. 株主還元方針

当社は安定的な利益還元を目指しております。

中長期的な内部留保を維持しつつ、将来の大成ラミックグループ全体のさらなる発展に向けて投資・強化を図りながら安定配当を継続していくことを基本方針とします。

（本資料に関する注意事項）

本資料に記載されている予想数値は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、潜在的なリスクや不確実性を含んでいるため、将来の業績数値や施策の実現を確約・保証するものではありません。潜在的なリスクや不確実性等の業績に影響を与える要因については、経済情勢、需要動向、為替変動、原材料価格の変動等が含まれますが、これらに限定されるものではありません。

以 上